

令和6年度 学校評価の目標

本年度 の 重点 目標	「あたたかい学校づくり」～自己実現を支える～ ○ お互いを尊重する高い人権意識をもった児童生徒と教職員による、健康で安全・安心な学校づくりを進める。 ○ 個々の特性の丁寧な把握と、社会で幸せに生きるための力を育む、個別最適で協動的な学びを促進する。 ○ 教職員が仲間と新しいことに挑戦でき、やりがいを感じて仕事ができる職場環境と、連携や協働による人材育成や業務のスリム化を図る。		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
小学部	・児童一人一人の興味関心に応じたさまざまな教育活動や教育環境づくりに取り組む。	・「学習の個性化」の観点から授業実践や授業改善を図る。 ・児童が安全に安心して活動できる学習環境や教室環境を学年会等で検討する。 ・児童の支援及び指導の方法を検討するための個別のケース会を設定する。	・児童の興味・関心を把握し、主体的に活動できる教材教具の工夫をする。 ・事故やけがの未然防止策を学年会等で検討する。 ・学級や学年の支持的風土を醸成し児童の自尊心や自己有用感を高められるようにする。 ・ケース会の設定にあたっては、学年会等で設定する。
中学部	・教職員が協働し、生徒一人一人の最適な学びにつながる教育活動を推進する。	・人権が尊重された環境をつくることで、誰もが自尊心や安心感をもって活躍できるようにする。 ・生徒個々の目標を常に意識し、複数の目で評価をする。 ・教職員の円滑な協働のために、業務の効率化を図る。	・相手の意見や価値観を尊重し、適切な言葉や行動を選ぶようにする。 ・複数の教職員で、生徒の実態把握・目標設定・評価を行ったり、個々の目標をすぐに確認できるようにして、確認や振り返りの機会を多く設定したりする。 ・それぞれが広い視野で課題を捉えるよう意識して自分にできることを積極的に行い、効率化をするにあたってはその影響を丁寧に整理する。
高等部	・一人一人の教育的ニーズに応じた指導を行い、社会的、職業的自立に向けて必要となる能力や態度、さらには生きる力の育成を目指す。	・生徒同士や教職員との関わりの中で、挨拶及び場面に応じた態度、実態に応じた話し方などコミュニケーション能力の向上を図る。 ・日頃の授業や各種行事、生徒会活動等において、生徒の個性や人権を尊重する。また、活動に主体的・意欲的に取り組み、達成感を味わい、自己有用感を感じられるようにする。 ・産業現場等における実習、就労体験実習、校内実習、作業学習、商業科専門科目などの職業教育の充実を図る。	・校内外の活動を通して、生徒相互の関わりや、生徒と教職員の関わりを深められる機会を設ける。 ・生徒が自己肯定感を感じられるような言葉掛けを心掛ける。主体的に取り組む力や、粘り強く取り組む力を身に付けられるよう、生徒自身が挑戦する機会をできるだけ多く設け、適切な支援をしていく。 ・生徒一人一人の実態に応じた卒業後の進路を念頭に置き、自立に向けた学習を計画的に設定する。
訪問教育	・児童生徒の実態や家庭の状況を丁寧に把握し、共通理解を図る。 ・授業内容や教材・教具の活用の幅を広げ、個々に合わせた授業作りを目指す。	・訪問教育会議で児童生徒の情報交換を丁寧にやっていく。 ・校内及び外部機関との連携を密に取りながら進めていく。 ・授業の様子を教職員間で共有し、反映できるようにする。 ・授業内容や教材を紹介し合う機会を定期的に設け情報交換をする	・保護者の気持ちに寄り添った対応を心掛ける。 ・家庭からの要望や質問で、迷う場合はその場で返答せず、会議で検討して返答するようにする。 ・授業での気付きを大切に、児童生徒の実態把握や変化の読み取りを丁寧にやる。 ・課題を改善できるように積極的に意見交換をしていく。
総務部	・児童生徒の学習活動が向上するように環境を整える。 ・PTA活動の効率的かつ円滑な運用を図る。	・教室の備品・消耗品の整備をする。 ・PTA役員と十分にコミュニケーションをとり、役員ニーズを把握するように努める。	・教室の備品や消耗品について、古いものや破損しているものについて調査し、新しいものに更新していく。管理体制を整備し、円滑な備品管理を図る。 ・PTA会長や役員とこまめに連絡を取り合い、小さなことでも丁寧に確認するように努める。
教務部	・教材・教具について情報を整理し、活用しやすい環境を整える。 ・各教科等を合わせた指導において、各教科の位置づけの明確化を図る。	・教材・教具について一覧表を作成するなどして、管理方法を整える。 ・予約方法、使用方法などについて、周知を図る。 ・研修部と連携を図り、部研究で各教科等を合わせた指導の年間指導計画の内容の確認、見直しに取り組む。	・教材・教具の使用頻度についても調査し、廃棄や新規購入についても検討する。 ・貸出ファイルやグループウェア等、頻度などに応じて効率的な活用方法を検討する。 ・学習指導要領と突き合わせて確認する。
生徒指導部	・防災体制の整備と周知を行う。 ・スクールバスの安全で円滑な運行を行う。 ・分掌業務の精選を行う。	・防災マニュアルの内容や重要項目について教職員への周知を図る。 ・避難訓練等の実施と検証をする。 ・バスコースの時刻、運行経路が適切であるか調査し、検討及び修正する。 ・議題及び研修等の精選を行い、業務のスリム化を図る。	・防災体制について研修を通して周知する。新たな諸問題について検討を加え修正する。 ・避難訓練実施後の反省を受けて課題について整理し、安全で迅速な避難ができるような体制を整える。 ・運行経路の検討及び時刻の修正を行い、保護者や児童生徒のニーズに寄り添った運行を行う。 ・担当教員で業務内容の検討を行う時間を取れるようにする。

<p>進路指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅就労の推進を図る。 ・進路指導に関わる情報提供の充実を図る。 ・進路先との連携を充実し、適切な進路開拓を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関と連携したテレワークを取り入れた実習や遠隔授業を行う。 ・教職員や保護者に対して外部講師の講話を答関係者に対して適切な情報提供を行う。 ・事業所訪問によって卒業生の定着を図ると共に、関係機関との信頼関係を構築し、情報収集する共に生徒の進路選択につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他校や協力企業との連携を密にし、生徒が自己実現を図ることができるような肢体不自由の生徒の実態に応じた働き方の構築を図る。 ・進路だよりや進路の手引き、支援相談、部懇談等を通じて情報提供できるように配慮する。 ・進路先との連携を密に取り、最新の情報を入手するように努める。
<p>研修部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の専門性や指導力が向上するように、校内における各研修や研究を整える。また、校外の研修を受けやすい環境を整える。 ・連携や協働による業務のスリム化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者が指導力を付けられるように、初任者を指導する複数の教員で情報を共有し、研修内容や環境を整える。部研究では、教務部と連携をとって円滑に研究が行えるようにする。校内研修の充実を図ったり、校外研修の案内を積極的に発信したりして、各自が必要な研修を選択し、積極的に受講できるようにする。 ・各研修や各係の内容の精選、手順の整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者の話を聞いたり、研修に関わる教員の話し合いの機会を設定したりして、課題や解決方法などを共有し初任者や指導する教員を支える体制を作る。部研究では教務主任や研究担当者話し合いをする機会を設ける。 ・校内研修についてのアンケートを実施し、ニーズの把握や内容の改善に努める。校外研修の情報を研修部内外から広く収集し、閲覧しやすい場所に掲示・保管し、主体的に必要な研修を検索して受講できる環境を整える。 ・各係の資料やマニュアルの整理、関係教員との調整を行い、研修部内で協力しやすい体制を作る。
<p>図書・視聴覚部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学習活動を向上させ、豊かな心を育てる図書環境作りをする。 ・視聴覚機器の効果的な利用のための環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配架や見出しの整備・工夫をする。 ・図書館まつり等の企画や日常の啓発活動の中で、本に親しむ機会を提供し図書の利用を促す。 ・視聴覚機器の管理と整備を行い、効果的な活用方法を提案するなどの環境作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節や行事に合わせた配架をするなど工夫をし、見やすく本を手に取りやすく配置するなど利用しやすくする。 ・絵本のキャラクターを掲示したりゲームを行えるコーナーを設置したりするなど、児童・生徒が楽しく参加できる企画を計画する。 ・機器の配置や整備、更新を行い、定期的な機器管理を行うなどしつつ視聴覚機器を利用しやすいように整備する。
<p>保健部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康・安全面に対する教職員の意欲を高め、事故防止に努める。 ・学校給食を活用した食に関する指導を実践し、安全で安心な給食を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット事例を共通理解し、学年で具体的な対策（環境整備、支援方法等）を早急に検討する。 ・保健部で集約して、毎月部職員に報告し、事例と対策の共有をする。 ・各実態に合わせた食に関する指導を実践する。 ・毎月の給食アンケートを活用し、全体の意見を集約して、児童生徒の食べる機能に合わせた、より安全な給食を提供できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さなことでも確実に記録、共有し、大きな事故につながる前に対策を立てられるようにする。 ・発生状況を整理し、傾向と対策を検討する。 ・教職員間の共通理解を図りつつ、課題を共有し学校全体として取り組む。 ・栄養教諭を活用し、食に関する指導を実践する。
<p>自立活動部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の書式の改善を目指す。 ・安心安全な温水プール指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の書き方や考え方について研修や資料提供を行って共通理解を図り、学年会や部会で意見を収集する。 ・研修等で温水プール指導における基本的な留意点について全職員で確認する。 ・昨年度の反省を基に、他の分掌や校内全体で情報を共有したり保護者や外部専門家と連携を図ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動部全職員で分担して各学年の個別の指導計画や個別の指導計画作成シートを確認する。課題点を共有して研修や資料提供を行い、分かりやすく書きやすい書式へ改善できるように各会議に提案する。 ・実技研修や動画による研修を実施する。外部専門家に指導助言をいただき、校内に情報を発信する。 ・教務部や保健部と連携し、校内の体制を確認する。個別の配慮事項について、保護者（医療機関）、学年、分掌で確認する。
<p>教育情報部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員用パソコンの更新と、校務系ネットワークのクラウド化を円滑に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新システムの利用方法を全職員に分かりやすく説明する。 ・教育系ネットワークと校務系ネットワークにあるファイルサーバの住み分けを検討して、データを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変更に伴う混乱を最小限に抑えるために、現状のネットワークシステムからの変更点や新たな利用方法を書面にする。 ・年々ファイルサーバのデータ量が增大しているため、不必要な古いデータを削除してから、教育系と校務系のファイルサーバを整理する。
<p>教育支援部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との関わりや相談に関する体制の強化を図り、円滑で有意義な地域支援活動を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地校交流の進め方を図式化し、必要な書類を整えることで、円滑な実施を目指す。 ・関係機関との連携を促し、児童生徒の指導に生かす。 ・支援の方法や技術について、考える機会を設け、指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地校交流の流れ、打ち合わせ記録を書式化し、「支援部からのお知らせ」に追記する。 ・療育センターとの巡回相談、ケース会や訓練見学の活用を促したり、整形外科医の講話を教員の希望に応じた内容にしたりする。 ・相談の内容を分掌内で共有し、意見を交わすことで多角的な視点をもって相談に臨めるようにする。
<p>学校関係者評価を実施する 主な評価項目</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒、保護者、教職員が互いにリスペクトできる関係や環境作りを努め、健康で安全・安心な学校づくりの実践 ○一人一人の特性を伸ばし、将来の生活を見据えた個別最適で協働的な学びの促進 ○いじめ防止に関する会議の定期的開催及び児童生徒の丁寧な実態把握による、いじめの未然防止 ○教職員間の協働による教育活動の充実と業務のスリム化による教職員の多忙化解消 	